

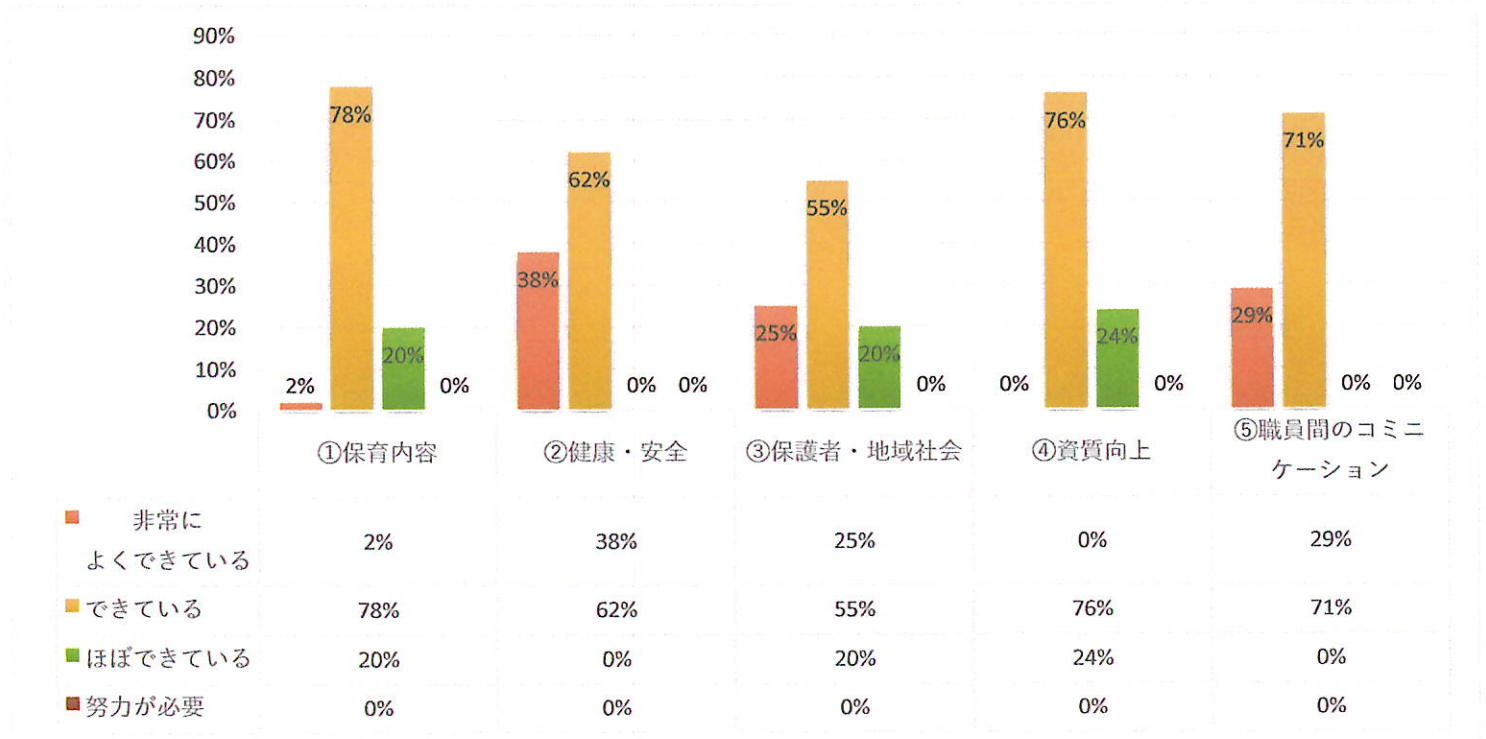
令和5年度 保育所自己評価

牛久さくら保育園

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価ならびにその公表が努力義務とされています。これにもとづき、牛久さくら保育園では保育士の質の向上及びより良い保育園を目指して自己評価を実施しました。評価結果を踏まえ、より良い保育を提供できるよう努力していきます。

1 保育士の自己評価

5つの項目について、アンケートにて自己評価を実施した。(アンケート内容別添参照)



【アンケート結果】

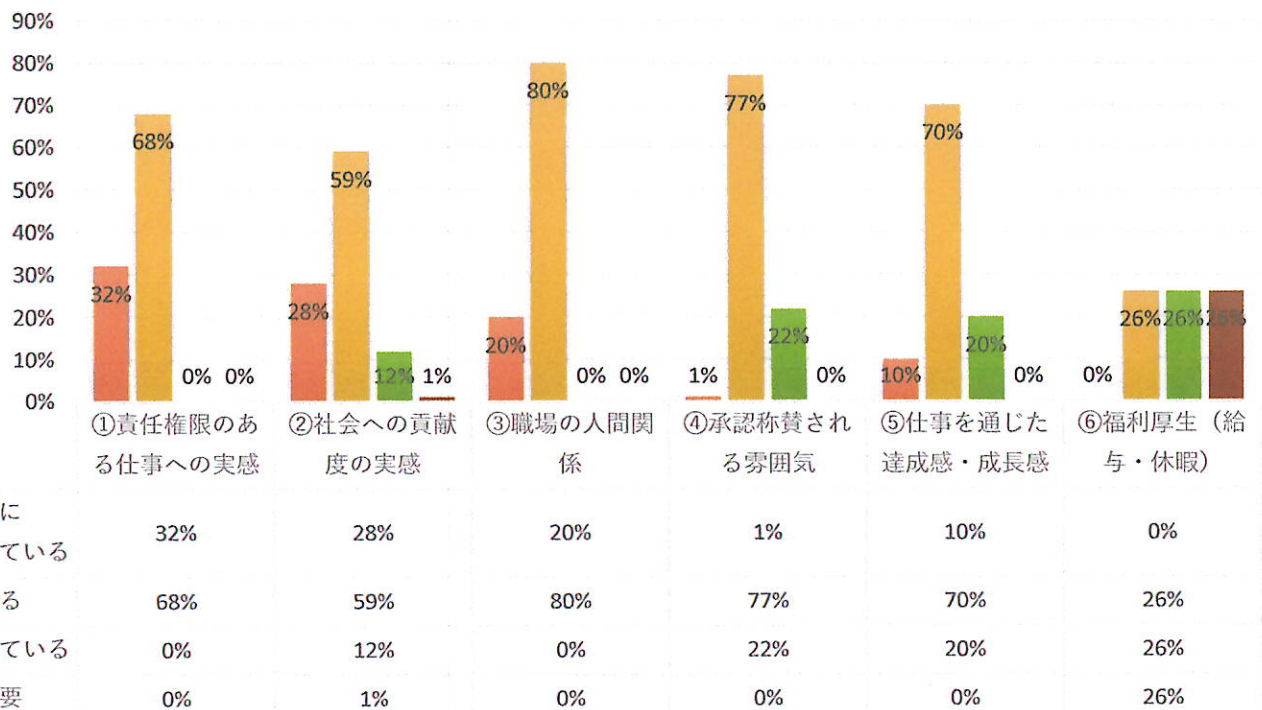
- ①保育内容については概ね高評価である。子どもの人権に関するチェックリスト等を利用しながら一人ひとりが意識して保育ができていると感じる。
- ②健康・安全に関しては意識が高くマニュアルの整備や研修、ヒヤリハット等を使った周知などがしっかり結果に現れていると感じる。
- ③保護者・地域社会については経験の差などから評価はわかれているが、概ね丁寧に関わり助け合う土壌ができていると感じる。今後も職員の育成とともに努めていきたいと思う。
- ④資質向上についても概ね高評価であるが内容を細かく見ると個人差が大きく、特に難しい資質を求めているわけではないので更に向上心を持って高めていく必要があると感じる。
- ⑤職員間のコミュニケーションについては、高評価である。相談し合えるチーム作りを意識して今後も維持していきたいと思う。

【今後の対策】

どの項目も概ね高評価であるがそれに満足することなく努力を続けていきたいと思う。自己評価に加えて保護者アンケートなどから保護者の声にも耳を傾けて、自己満足ではない総合的な評価から園全体の質を高めていくことを意識していきたい。

2 保育園の自己評価

5つの項目について、アンケートにて評価を実施した。



【アンケート結果】

- ①責任権限のある仕事への実感については高評価である。保育者一人ひとりの人権も意識し意思決定にも参加してもらうことで高まっているのと感じる。
- ②社会への貢献度の実感については「努力が必要」だと感じる職員がいたので、園としてどのような対応ができるか改めて問い直したいと思う。
- ③職場の人間関係については高評価である。
- ④承認称賛される雰囲気についても概ね高評価ではあるが、更に意識して努めていくことで保育者一人ひとりのやりがいに繋がるのではないと思う。
- ⑤仕事を通じた達成感・成長感については、令和4年度との比較で数字が落ちてきている。
- ⑥の福利厚生については評価がわかれ「努力が必要」の回答の割合も多く感じる。

【今後の対策】

職場の人間関係は良好ではあるが、組織としての役割分担には課題を感じている。保育者一人ひとりの評価を通して適材適所の配置に努め、仕事のやりがい・達成感を感じられるようにしていきたいと思う。また福利厚生面での不満は大きい。休暇に関しては有給休暇の消化はほぼ100%に近く現場では努力をしているが、給与面については今後も課題であるとともに若者の離職に繋がりがやすいことを認識し、改善を訴えていきたいと思う。